

崇禪寺

東淀川区東中島五丁目27
「崇禪寺」下車 北約200m

聖徳太子の創建と伝えられるが、はじめ観音堂だけであったという。嘉吉元年(1441)赤松満祐が將軍足利義教を殺害、その逃走の途中観音堂近くに埋葬したので、將軍義勝はここに伽藍を建立し崇禪寺として菩提を弔った。

当寺には、義教の首塚、細川ガラシャの墓、崇禪寺馬場の敵討て反り討ちにあった遠城兄弟の墓がある。

なお戦後復興の茶席庭園は、茶の木を植え込んだ珍しいものである。

摂津県・豊崎県庁所在地跡

崇禪寺門前
「崇禪寺」下車 北約200m

大阪府は明治元年誕生したが、翌2年正月になるとその一部をさいて摂津県がおかれた。庁舎所在地には崇禪寺馬場の地が選ばれたが、庁舎建築はされず、崇禪寺伽藍のどれかを仮庁舎にしたようである。なおこの3か月後、摂津県は豊崎県と改称、さらに数か月後には兵庫県に合併されるなど、当地は行政区域の変更がくり返された。このとき、崇禪寺馬場や中島惣社にひろがる大きな森も乱伐されたという。

摂津国分尼寺伝承地 法華寺

東淀川区柴島二丁目12
「柴島」下車 東約50m

天平13年(741)聖武天皇が全国に国分寺・国分尼寺の建立を発願し、当寺が摂津国分尼寺にあたるといわれている。最初、広大な寺域を有し七堂伽藍・舍利塔なども備えていたが、その後長く衰退し、応永13年(1406)禅宗の寺として柴島浄水場付近に再建された。しかし浄水場拡張に伴い、当時のものと思われる礎石とともに現在地に移動した。

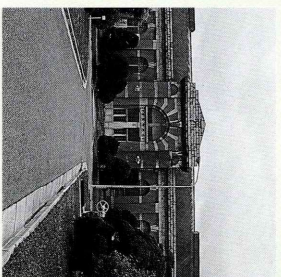
柴島浄水場

東淀川区柴島一丁目
「柴島」下車 西すく

大阪市の浄水場は、明治28年校の宮に設置されたのがはじまりで、それまでは直接淀川から汲み上げた川水を利用したり、井戸水に頼ったりしていた。

大阪市の発展に伴い、これだけでは全市民に給水できなくなり、新設が検討された。そして工期4年余りで、大正3年3月柴島浄水場が完成した(建設前は、広大な芝生地で名物柴島晒の干場になっていた)。給水能力は150万人で、当時としては世界有数の規模であった。

しかし、大阪市の発展に追いつけず、たびたび拡張工事が行われ今日に至っている。最近では、急速な過方式が進み、1日給水能力118万㎡あり、市の中心部・北部・北西部方面に給水している。



柴島城跡

東淀川区柴島二丁目19-5 地先
「柴島」下車 東約200m

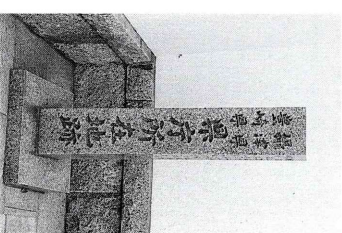
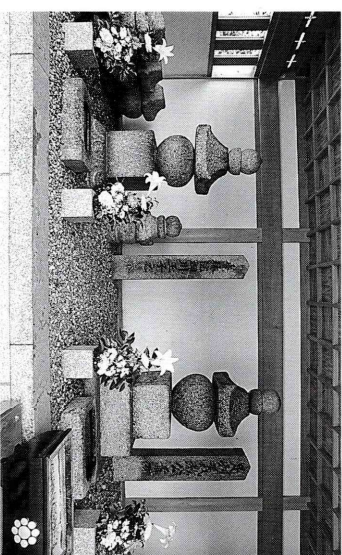
西国から京都への重要拠点であった当地は、戦略的に重視され、細川晴賢・三好政長等が拠った城跡として知られる。隣城時期不明。付近の字名に、本丸、城道などがあり、他の場所より1〜2m高台で周囲200mほどのところが城跡とみられ、碑の付近がそうだという。

柴島神社

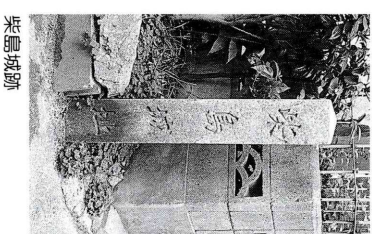
東淀川区柴島三丁目7
「柴島」下車 北東約300m

伝えによると、貞永元年(1232)9月、この付近は大洪水に襲われた。村民は少し高台になっていた土地に避難したところ、たまたま一束の柴に八咫鏡が乗り漂着したので、それにあつた八幡大神、天照皇大神、春日大神を祭神として祭ったという。元の位置は、淀川改修工事によりその河川敷となったので、明治34年4月、現在位置に移転した。

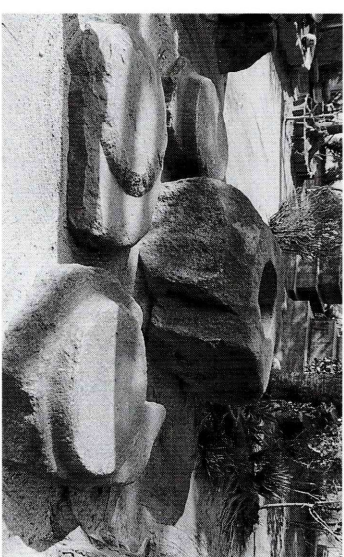
当社には室町時代初期の典型的様式を示す太刀を蔵しており、府有形文化財に指定されている。



崇禪寺



柴島城跡



法華寺境内礎石